

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2691200238		
法人名	株式会社オールウェーズ		
事業所名	グループホームすみれ		
所在地	京都府宇治市神明石塚25-21		
自己評価作成日	令和3年12月25日	評価結果市町村受理日	令和4年7月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jiyosyoCd=2691200238-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階		
訪問調査日	令和4年5月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各入居者様の生活の場、かつ共同生活の場として、皆様が慣れ、それぞれの方の強みを誰かの役に立つ事に活かすことができる、各入居者様を知りどのような環境や活動を用意出来ればそれが可能かを考え支援している。各入居者様も職員も、皆がお互いに関わり合い、「ありがとう」と伝えあえる、笑顔になれる。出来るだけ外の空気に触れる事を日課とし、散歩に出る。屋内でも体を動かし歌い、無理の無い範囲で一緒に家事活動を行う。また、活動性ばかりではなく休養も大切に、メリハリをつけ、生活リズムが乱れない範囲でそれぞれのペースで過ごして頂く。健康状態はもちろん、日常生活動作や認知症状による自立度の変化に応じて柔軟に対応しケアを行えることを目指している。職員には積極的に研修への参加、かつそこの学びを実践し、共有するよう働きかけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

宇治市神明の住宅街に、株式会社オールウェーズを母体とする、「グループホームすみれ」があります。3年半前の設立当初の初心を忘れず、スタッフは、運営理念「自分らしく生きる」を念頭に、日々入居者目線に立った支援をされています。経営者は、過去のご自身の勤務経験に照らし、大きな組織にありがちな、小回りの利かないサービスへの反省から、現場を第一に考え、良いと思ったことは、現場の裁量ですぐ実践できるようにしています。当日の天気や入居者の体調等を見ながら、頻りに散歩やドライブ等、外気に触れる機会を作り、その楽しげな様子は、ホームページ等にも掲載されています。また、入居者の力を借りながら、温かくおいしい手料理の提供を心掛け、洗濯物量みや体操、歌、園芸等の生活習慣や趣味の継続の支援等により、生活の質の維持向上に力を入れています。新型コロナウイルスが下火の12月には、北宇治地域包括支援センターと合同で、認知症あんしんサポーター養成講座を開催し、地域の方々に認知症への理解を深める活動もされました。24時間対応の主治医と事業所看護師との連携も密で、自分らしい生活の実現を総力で応援してくれるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体研修などでも事業所理念について言及される事は多くあり、共有する事が出来ている。和と輪を大切にという理念とグループホームという共同生活の場において、自分らしくという事業所理念のもとにその人らしく過ごして頂けるよう努めている。事業所を超え地域となると困難さはある。	法人理念「人の和と輪を大切に」をもとに事業所理念「住み慣れた宇治で…(後略)」や、運営理念「自分らしく生きる」を提唱し、全体研修等で社長が言及し、職員は「心配り」、「気配り」、「目配り」をしつつ、日々実践につなげている。また独自にスローガン「地域に根づいた活動をする」を掲げているが、コロナ禍で進展していない。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会への参加、近隣の散歩でのあいさつや交流は日常的に行っている。積極的な活動は時勢で難しいのが現状である。	コロナ禍以降、近所付き合いは遠のいたが、頻りに散歩をし、途中で住民に会えば挨拶を交わしている。町内会に入り回覧板を回し、回覧板等から地域情報を得ている。北宇治地域包括支援センターと合同で、認知症あんしんサポーター養成講座を開催し、神明地区の民生委員等を招き認知症の啓発活動をした。近くの小学校に入居者が縫った雑巾の寄贈をし、近所の方からは野菜や花を戴いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日課である近隣の散歩に出かける姿を自然に目にしていた頂き、挨拶を交わしたり地域の方と会話したりといった交流から、地域に浸透できていると感じる。認知症サポーター養成講座を開催。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	一年前と大きく変わることなく行っている。コロナ禍ということで書面でのやり取りが続いており、新たな参加者への依頼がなかなかできなかった。内容についていつも良いお言葉を頂いているが、それに甘んじないよう心がけている。	運営推進会議は、2か月ごとに2つのグループホーム合同でおこない、年2回はデイサービスも参加し、3ヶ所の合同開催としている。コロナ禍により書面開催の場合も多いが、その際は事前に関係者に資料を配布し、意見を収集している。利用実績、活動・行事・研修報告を盛り込み、写真入りの分かり易い資料となっている。関係者による活発な意見や助言があり、書面ながら、内容の濃い会議となっている。	議事録は関係者や全家族に配布し、事業所の透明性を高めておられます。内容も多岐に亘り、読まれる方も、入居者の実情が見え、安心されていると思います。「ヒヤリハット事例の集積と検討」「体調不良者の取り扱いマニュアルの開示」など、関係者から寄せられた意見にどのように対処したかを次回の議事録に載せると、更に内容が深まると感じます。ご一考願います。

京都府 グループホームすみれ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて介護保険課職員の方に事業所の取り組みや状況をお伝えし意見を頂いている。介護相談員のお便りに入居者様からお返事を書いて頂けるよう働きかけている。オンライン面会も検討中。	介護相談員からの手紙に、書ける利用者は手紙で返信をしている。運営推進会議(書面)に市や、北宇治地域包括支援センター職員が関与している。新型コロナ関連の連絡、介護保険更新申請、事故報告、運営推進会議議事録持参等種々の用件で、日頃から行政と連絡を取ったり足を運ぶ機会がある。消防・避難訓練に消防署の立ち合いがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体研修の項目に設け、事業所の全体会議内で身体拘束適正委員会の議題を上げ、身体拘束への理解とともに具体的にケアについて振り返り、適切なケアが行われるよう検討し周知している。	「身体的拘束適正化のための指針」を定め、主任以上の役職者と看護師とで、3か月ごとに3事業所合同の「虐待及び身体拘束委員会」を開催し、出席者は各職場で伝達研修をしている。年2回全職員の研修を実施し、「虐待・身体拘束チェック表」で各自振り返り、事業所内で結果を纏めて検討している。玄関は昼は施錠していないが、無断で出る方はおられない。	定例の全職員研修や委員会は開催されていますが、資料の纏まりが不十分です。会議の参加者と討議内容がはっきりわかるような記録の整備が望まれます。研修レポートも実際受講者された方と、別の方法をとった方の区分けを明確にして、第三者にも分かるような記録が望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束の項目とほぼ同様、研修で学ぶ機会を持ち、職員が気にかかったことを会議等で話し合い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の利用について具体的な流れを全職員が理解できているか不確か。現在のところ必要性が考慮される方はおられないが、入居者様・ご家族様の状況の把握に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の改訂等の折には理解頂けるように説明し、疑問等が寄せられた際には納得して同意いただけるようしっかりお話を伺い応対している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族から何らかの連絡やご意見があった際には職員で共有し、どのようにしたらよいか検討している。面会などでお会いできる機会があれば、お話を伺いご意向を聞き取るよう努めている。	面会や、運営推進会議資料配布、意見箱などで意見聴取の機会を持っているが、積極的な意見はあまり聞こえて来ない。家族から、「職員が変わっても名前が分からない」という意見があり、職員間で検討し、写真と名前を掲示するボードを設ける予定である。	

京都府 グループホームすみれ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度全体会議で日常業務について振り返り、職員の意見をもとに話し合い、必要に応じて見直している。会議以外の場でも職員の思いを日常的に聴いている。	会議などで意見が言いやすく、社長も時には現場に入るので、職員の気持ちをよく理解しておられ、現場の意見が届きやすい。正職員は1年に1回、パート職員は更新に合わせて年2回社長面談があり、その際にも意見を言える。早出の職員の休憩時間確保等、勤務体制見直し案があがり、現在改善策を試行中である。入居者処遇への提案、職員増員の要望なども出ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ワークライフバランスを尊重し、職員の希望に沿った休み、有給の積極的取得に配慮し勤務シフトを作成。経験、能力や資格を考慮し給与決定。役職・処遇改善などの手当を含め給与に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自施設内での定期的な研修以外にも認知症実践者研修などの外部研修への参加をすすめている。新しい職員には介護プリセプターを置き現場内外で支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や他サービスが行う交換会などが実際には開催されていない現状であり、交流が難しい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者ご本人の状態の把握に努め、ご本人が口にされる思いをしっかりと伺うのはもちろん、職員の気づきも投げかけコミュニケーションをとり、安心して頂ける関係づくりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会に来られたり、連絡が必要な折に、職員とご家族でお話する時間を持ち、安心して頂ける関係づくりに努めている。金銭的な事や体調面など、不安を感じやすい内容については特に詳しく説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態の変化への気づきを記録し、必要と考えられるサービスを利用して頂くことで「その課題」の解決につながるか検討し、ご家族と相談して対応している。		

京都府 グループホームすみれ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事準備や片付け、掃除などを、ご本人の強みを把握したうえでそれぞれ職員と一緒にやって頂き、生活の中での役割を持って過ごして頂けるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にご本人の様子や想い、サービス関係者の意見をお伝えし、何が必要か一緒に考えご本人を支援していけるよう努めている。通院同行などをご家族の協力が可能な範囲でお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外部との接点は減っている。またご本人の想いへの理解はあっても、それぞれのADLの変化に伴い行き届かないところがある。併設のDSを利用されていた方は、馴染みだった方と接する機会がある。	現在は面会が可能で、家族には本人の居室迄入ってもらっている。たまに2階のデイサービスに通われている知人との交流がある。携帯電話で自宅に電話をかけられる方があり、自分でかけられない方には職員が支援をしている。庭のプランターに花等を植え、洗濯物畳み、簡易モップでの掃除、体操や、フラワーアレンジメント、貼り絵など、家事や趣味の継続も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介しそれぞれのコミュニケーション能力に応じて関わり合いを支援している。生活動作やレク活動でそれぞれの強みを活かして頂くことで、自然と「ありがとう」というやり取りができている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当社ではまだ該当者はないが、今後そのような状況になった際には、ご本人・ご家族の支援ができるよう努めたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	把握には努めている。ご自身の力でできることと困難なことを検討し、できる限りご本人の想いに沿ってご本人主体出来ることをと考えている。	「何がしたいですか?」「何が食べたいですか?」といった質問には具体的な答えが得られないので、飲み物や服選び等にも選択肢を示し、選んでもらっている。言葉を発しにくい方は様子などから意向を推測している。本人から具体的な意向が聞けた場合は、アイパットに記録し、職員間で共有している。帰宅願望の強い方には、携帯電話でご家族と話す事で落ち着いてもらっている。	

京都府 グループホームすみれ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人やご家族から伺った生活状況を踏まえケアにあたっている。入居後もご本人の状況を把握しご家族にお伝えして、更にエピソードなどを伺う機会を持つ。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調の変化、認知面での変化など、気づきを記録し申し送り、職員間で共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度、全体会議のケアカンファレンスで、変化のある入居者様等のケアを見直す機会を設けている。各入居者様の担当職員を決めモニタリングを行い、ご家族の意向も伺い介護計画を作成している。	介護計画には主治医や介護職、通院付き添いのご家族や歯科医等の多様な支援が記載されている。計画の長期目標を1年、短期目標を6か月と定め、通常1年毎に計画を更新する。ケアカンファレンスや諸記録をもとに、3ヶ月毎に計画のモニタリングをしている。本人に変化があれば随時介護計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録や申し送りにより各入居者様への気づきを共有し、いち早く状態の変化に対応出来るよう、また切れ目のないケアが実践できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれの入居者様を理解し、その人らしさを発揮できる場づくりや音楽療法士によるレクなどの活動、訪問マッサージといった個別に必要なサービスを提案し、ご家族とも相談し取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に参加し、回覧板での地域の情報の確認を行い、また当事業所の情報の開示も行っている。町内会長や民生委員と連絡をとり、隣の小学校とのやり取りなどの中で生活に豊かさが持てるように検討している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に定期受診されたり、在宅医の往診を受けられたり、ご本人の状態やご家族の意向に応じている。適切な医療を受けられるよう、情報交換など医療関係者との関係の構築にも努めている。	1名は従来の主治医にご家族と通院されているが、他の方は24時間対応の協力医療機関の主治医(内科)に変更し、月2度の訪問診療や臨時的往診を受けている。事業所看護師は主治医と連携して医療的ケアに当たっている。他科受診は、状況に応じて、家族や事業所が付き添う。必要な方は、歯科医や歯科衛生士による診察や口腔ケア、訪問マッサージも受けられている。	

京都府 グループホームすみれ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の看護職員が月に二回の往診医の来所時に同席し各入居者の状態を伝え相談している。看護職員も介護に従事しており常に職員間で相談し合いながら対応する事ができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要となった入居者様がおられた際は、ご家族と病院連携室との情報交換に努め、退院前のカンファレンスや退院後の状態観察などしっかりと行い、その後の入居者様が適切な医療を受けられるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師や医師の対応について明記した指針を作成し、グループホームで可能な看取りについてお伝えして定期的にご家族、ご本人の意向を確認している。その内容を職員や主治医が共有している。また、研修への参加も行っている。	「重度化対応・終末期ケアに関する指針」を整備し、京都市老人福祉施設協議会主催の看取りのWEB研修を受けた介護職員が3名おられ、看護師とともに看取りへの準備をしている。開設以来退去者や終末期の方がおられず、実際の看取り例はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応の一つとして看護職や主治医との連絡体制をしっかりとっている。応急手当についてのマニュアルを作成し周知し、訓練を定期的に行うよう努めている。定期的に事業所内での研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣との協力体制を築けるよう努力している。年二回訓練を行っており、その際は地域の方にお知らせしている。災害に備えた備蓄を確保している。	年2回、併設のデイサービスとの合同訓練をおこない、うち1回は消防署立ち会いのもとで、通報・避難訓練を実施し、入居者の退避時間の計測もしている。近所へは訓練実施のビラを予め配り知らせている。備蓄は水、割り箸、紙コップ、紙皿、レトルトご飯、きつねうどんなどを多めに用意し、カセットコンロや消毒ジェルなども備え、備蓄倉庫の増設も計画している。	備蓄の賞味期限が近いので、より新しいものと入れ替えるか、ローリングストックで消費しつつ補充されるのも一案かと思えます。ご検討願います。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言動に心がけ、プライベート空間である居室への配慮や、リビングでの入居者様の過ごし方においてもそれぞれを尊重しつつ活動をして頂いている。	虐待及び身体拘束委員会を3か月ごとに開催し、職員は「不適切ケアチェック表」で、3ヶ月ごとに自身を振り返っている。結果を見て、管理者が必要と感じた場合は、職員と個別に話し合っている。部屋に入る際はノック、声掛けを励行し、呼称は必ずしも苗字ではないが、失礼のない声掛けをしている。職員間の申し送りの際も、入居者を個人名で特定せずイニシャルを用い、職員にイライラ感が見えたら、他の職員が持ち場を変わったり、軽い休憩を促し気分転換を図るよう配慮している。	

京都府 グループホームすみれ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	活動への参加など過ごし方について、声掛けしご本人の意向を伺い尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様それぞれの生活リズムを崩さない程度に、ご本にの希望を大切に、過ごして頂けるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人のお好きなものを着て頂けるように一緒に服を選んだり、定期的にタンスの整理を行うなどしている。訪問理容のサービスも利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を見て頂いたり献立についてお話ししたりする機会を持ったりしている。それぞれ持っておられる強みに応じ、食事の準備や片付けを職員と一緒に行うことが習慣となっている。	最近の入居者と食材の買い物に出ることはなく、必要なものをボードに書き、店の個別配達を利用したり、職員が買い物に出ている。家族に聞いて誕生日に好きなメニューを提供し、おせちやひな祭りの寿司等の行事食で季節感を味わってもらっている。地域から戴いた野菜も調理し、豆の皮むきや下ごしらえ等のできる方にはしてもらっている。ピザや鮎などのテイクアウト、弁当の取り寄せ等をしている。クリスマス・ひな祭り・誕生日ケーキなどを購入し、家族からの差し入れのお菓子なども皆で戴き、好きな飲み物を各自選び楽しんでいる。呑込む力の低下した方には医師と相談の上トロミ食等で対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの入居者様の食事や水分の摂取量を把握し、提供する際に調整や介助を行っている。毎回の献立を記録し、それを参考にバランスが取れる食事を作る事ができるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科往診のサービスを利用しており、相談・助言といった連携を取っている。それぞれの入居者様の状況を観察し、変化に応じて声掛けや介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を活用し、出来るだけトイレにて自然に排泄できるようトイレ誘導を行っている。夜間はポータブルトイレの使用が望ましいか検討し設置している。	屋は特にトイレでの排泄を支援している。リハビリパンツ着用により安心されたのか、汚れた下着を隠さなくなった方や、骨折によりオムツ着用となったが、痛みが消えて、リハビリパンツに改善された例がある。下剤を自分でコントロールできる方には医師・看護師と相談し、自分で加減をしてもらっている。見守りや扉外での声掛け、直接介助等、本人の状態に即した支援をしている。夜間のみポータブルトイレ使用の方もおられる。	

京都府 グループホームすみれ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全体への働きかけとして、散歩や体操を習慣とし、活動性を持って頂いたり、水分摂取を進めるなど予防に努めている。その都度状態に応じて看護師と相談し緩下剤などの調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に二回、決まった入浴日を設けているが、その時々希望や状況に応じて柔軟に対応している。それぞれの習慣や好みを把握し、入浴を楽しんで頂けるようにしている。夏場はシャワー浴の日を別に設けた。	一人ずつ湯を入れ替え、午前中1人、午後2人、歌を歌ったり、昔の話等をしながらゆっくり入って頂き、同性介助の希望にも沿っている。柚子湯をすることもある。皮膚の弱い方で自前のシャンプーを用意される方もある。リフト浴の方が2名おられる。拒否の方には人や日時を変えて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方のペースで過ごして頂くが、活動と休息のメリハリをつけられるよう日中にも休憩時間を設け無理なく過ごして頂けるようにしている。休んでいただく際は照明の明るさなどに配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を常に確認出来る所に置いており職員で共有している。配薬の際は職員間で連携し誤薬に注意している。症状の変化など気になる事があれば看護職員に報告し、かかりつけ医に相談できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者それぞれの強みを活かし、園芸で何を植えるか相談し育てるのを皆さんで楽しみにしたり、リビングに貼るカレンダーの製作で、色や飾りの配置を皆で考え一緒に作業するなど行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の散歩はほぼ日課になっている。市の植物園をはじめ季節感を感じられる場所への外出、買い物と一緒に行くなどご本人の意向を伺いながら行っている。	近隣散歩や、宇治市植物園の桜や紅葉、宇治田原のコスモス畑や井手町の桜等の外出ドライブを楽しみ、人が少なければ車からおりて散策している。お茶と宇治のまち歴史交流館「茶づな」にも行き、コロナ禍でも、平日の人出の少ない時を選び、外出している。買い物は最近自粛している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お預かりしたお金から、必要とされているものを、ご本人の意向とご家族への報告を踏まえ購入している。グループホームの買い出しにご一緒した際、何をかうか一緒に考え現金を持ちレジをすまして頂くこともある。		

京都府 グループホームすみれ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から希望があれば、ご家族にも確認し、電話をおつなぎしたり、絵葉書などの受け渡しをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月皆さんで制作するカレンダーは季節感を感じられるようなものになっている。その時々植物が飾られる事も多い。テレビの音や室温など、入居者様にお聞きしながら快適に過ごして頂けるようにしている。	リビングには、2台のテーブルに足置きや座布団で高さ調節をした椅子を置き、体位を安定させ、ゆったり座れるようにしている。大型テレビ前にソファを置き、寛げる場を設けている。壁には職員との合作のカレンダーや鯉のぼりの貼り絵がかかり、入居者は日中のほとんどの時間をリビングで過ごしている。洗濯物置みや歌を歌う等思い思いの過ごし方をされ、よく笑い、和気あいあいとしている。次亜塩素酸空間除菌脱臭機2台を置き、空気清浄をしている。簡易モップで掃除を手伝う入居者もおられる。消毒は夜勤の職員がしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席を基本的に固定し、関係性に配慮して配席している。かつ、思い思いにゆっくりとソファに座って過ごしたり、交流される際は空いている椅子を持ってきたりとその時々で柔軟に対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの習慣に合わせ、ご本人のお好きな物や馴染みの物、ご家族の写真や制作の作品を飾ったり、慣れた環境を大きく変えず、安心して安全に過ごして頂けるようにしている。	リビングを囲むように配置された各居室入口には、顔をかたどった折り紙に各自が目鼻を入れた自画像と、職員手製の名札が掛かり、自室の目印となっている。予めベッド、エアコン、照明、防災カーテンが備わり、チェストやハンガーラック、椅子等の家具類や思い出の写真、置物、仏壇等を各々の趣向に合わせて持参されている。居室の窓からは小学校のプールや駐車場が見え、夕日のきれいに見える部屋もある。周辺に視界を遮る物がなく、開放感のある居住空間となっている。できる方は職員とともに掃除やシーツ交換をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所を明記したり、居室の扉やリビングの自席に名前を貼ったりと、分かりやすいよう、混乱を招かないようにしている。		